



法人の森で間伐体験

として利用する予定です。参加者は「自然の中で気持ちのいい汗をかけた。」と充実した様子で話してくれました。

子供の班ではカモフラージュなどのレクリエーションを行い、遊びながら自然観察を楽しみました。

午後には森林インストラクターによるオカリナ演奏や森の話を聞き、その後で自然体験として火おこしに挑戦しました。どの班でも火をおこすことはできませんでしたが、「火をおこすのはとても大変。昔の人の苦勞を体験できた。」と話していました。

今後は主催者と話し合い、森林ボランティア・NPO団体との連携を視野に入れ、参加者がより楽しめるようなイベントを維持、継続していきます。

後から二十八日にかけて、中国四川省の研修生一行十七名が木曾森林管理署管内

中国四川省JICA技術プロジェクト
中国研修生木曾署管内を視察



班に分かれて火おこしに挑戦！



森林インストラクターによるオカリナ演奏

「木曾署」平成二十三年十月二十六日午後から二十八日にかけて、中国四川省の研修生一行十七名が木曾森林管理署管内

を視察に訪れました。

今回の視察は、二〇〇八年、中国四川省で発生した四川大地震の復興支援プロジェクトの一環で中国の森林植生回復のために日本の治山技術等を参考とすることを目的に木曾署管内の復旧治山、長野県西部地震跡地の緑化プロジェクトの現地等を視察しました。

初日は、川瀬署長の出迎えの下、森林浴発祥の地「赤沢自然休養林」周辺を視察。森林鉄道乗車と周遊コースの散策では木曾檜美林と溪流が醸し出す絶景を満喫した後、治山事業で整備された石張谷止工やバリアフリーの遊歩道、吊橋、間伐材を利用した遊歩道等を視察し強い関心を示した様子でした。

二日目は、木祖村管内の木曾川源流域の溪間工や県道下に位置する山腹工を視察し、施工前の荒廃した写真と施工後の現地を照合しながら採用した各種工種等についての質問等が飛び交いました。

三日目は、王滝治山事業所管内の治山施工地を視察しました。

展望台から緑に復旧した現地の眺めは昭和五十九年の震災直後の荒廃状況からは想像もつかないものであり、復旧のための治山技術・緑蘇生のための多くのボランティア活動に感心した様子でした。

また、伝上川復旧治山工事現場においては、急峻な法面

を視察に訪れました。

今回の視察は、二〇〇八年、中国四川省で発生した四川大地震の復興支援プロジェクトの一環で中国の森林植生回復のために日本の治山技術等を参考とすることを目的に木曾署管内の復旧治山、長野県西部地震跡地の緑化プロジェクトの現地等を視察しました。

初日は、川瀬署長の出迎えの下、森林浴発祥の地「赤沢自然休養林」周辺を視察。森林鉄道乗車と周遊コースの散策では木曾檜美林と溪流が醸し出す絶景を満喫した後、治山事業で整備された石張谷止工やバリアフリーの遊歩道、吊橋、間伐材を利用した遊歩道等を視察し強い関心を示した様子でした。

二日目は、木祖村管内の木曾川源流域の溪間工や県道下に位置する山腹工を視察し、施工前の荒廃した写真と施工後の現地を照合しながら採用した各種工種等についての質問等が飛び交いました。

三日目は、王滝治山事業所管内の治山施工地を視察しました。

展望台から緑に復旧した現地の眺めは昭和五十九年の震災直後の荒廃状況からは想像もつかないものであり、復旧のための治山技術・緑蘇生のための多くのボランティア活動に感心した様子でした。

また、伝上川復旧治山工事現場においては、急峻な法面



関心の高かったロッククライミングマシンでの作業



展望台から治山工事施工地を望む

をリモコン操作で整形する「ロッククライミングマシン」の稼働状況を視察し、日本の治山事業における先進技術の導入に強い関心を示した様子でした。

今年「日本の治山史百年目」と言われていますが、今回の視察においてもその歴史に培われた治山技術の一端を紹介できたものと思います。「中国の治山元年」の歴史に日本の治山技術が反映され中国四川省の森林造成の一助になることを願ってやみません。

国際森林年記念「金華山再発見！ 歴史と自然探訪ウォーク」

「岐阜署」十一月十日、岐阜森林管理署における国際森林年を記念してのイベントの第二弾として、「金華山再発見！歴史と自然探訪ウォーク」を行いました。

都市近郊林として多くの人が訪れる金華山ですが、近年の歴史ブームに加えて今年二月に金華山全域を含めた岐阜城跡が国の史跡指定を受けたこともあり、参加募集時には定員を大きく上回る参加希望があるなど強い関心が寄せられるイベントとなりました。

当日は二十名の方にご参加いただき、自然学研究所の清水先生による金華山の



植生の説明に聴き入る参加者

信長の時代から残る石垣や参道を見ながらの「戦の形跡が無く客人をもてなしたとされる文献が多いことから岐阜城は

午後からは岐阜市社会教育課の内堀さんから岐阜城の歴史について説明をいただきました。

植生についての説明を含めた山頂までのウォーキングから始まりました。金華山に生える常緑広葉樹の大半を占めるツブラジイの名前の由来（どんぐりが円ら「小さくてかわいい様」であること）や板根の説明では、実際に木の実を手にしたたりその姿を目の当たりにしてより実感が深まったようでした。また、他の植物の説明時にも熱心にメモを取る参加者の姿が印象的でした。



岐阜城の歴史にも興味津々

接待外交の拠点とされていたのではないかと見解や、「信長公居跡から発掘された庭園跡などはとても貴重でその価値は計り知れない」との熱のこもった説明に参加者は感慨深げに聴き入っていました。

当日は曇り空で肌寒い日でしたが、参加者からは「とても楽しかったので是非また企画してほしい」「タイトルどおり金華山の魅力を再発見できた」との感想が聞かれるなど、好評のうちに一日の行程を終了しました。



参加者で記念撮影

シリーズ 現場最前線

広大な国有林の管理 安全第一に良い山づくりを目指して

「木曽森林管理署王滝班」木曽森林管理署の王滝地区は、旧王滝営林署が所在した地区で、現在は王滝治山事業所と瀬戸川・南滝越・水ヶ瀬・北滝越森林事務所からなり、霊峰御嶽山の南側山麓から岐阜県境まで、王滝村一円の約二六、〇〇〇畝の国有林を管理しています。

当地区（王滝村）は、愛知用水の水瓶である牧尾ダムがあり、そうした位置づけから上下流の交流が盛んに行われています。村面積の八十四％を占める国有林はその水源林でもあり、地球温暖化防止対策としての森林整備や治山事業等災害に強い山作りを積極的に行っています。

王滝地区の造林班は、これまで瀬戸川・水ヶ瀬班、南滝越・北滝越班の二班十名体制で業務を行っていましたが、定年退職にともなう班体制の見直しにより四月からは王滝地区全域を範囲とする王滝班として六名体制で業務を行っています。

当班は、広大な二六、〇〇〇畝の国有林の管理とその管理用の道路でもある三〇〇キロにも及ぶ林道の維持業務を行うことが最大の特徴です。業務は除伐、歩道修理、獣害防除、収穫調査、境界巡



王滝班の皆さん

検、森林保全管理、林道維持業務等多様な作業を行っており、班長を中心にした毎朝のミーティングがかかせません。また、班員は大工、看板屋、電気屋、鉄鋼屋など、プロにも勝るとも劣らない卓越した技量を持っている職員が多いことも特徴の一つですが、生産事業に従事していた頃の経験も生かしながら丁寧で確実な作業はもちろんのこと、物作りから修理まで何でもこなしてしまうところがすばらしいところです。作業地では背丈以上もある竹のような笹と戦いながら、日々その技量をフルに発揮して業務を行っています。



焼岳と月

写真 コーナー

笑いの絶えない明るい王滝班。今後においても安全第一に王滝地区職員一丸となつて良い山作りに邁進していきたいと考えています。



大正池から穂高連峰を望む



王ヶ鼻から見る松本市街と北アルプス

八ヶ岳中信高原国定公園 美ヶ原高原

本州のほぼ中央、松本市の東側に位置し、松本市・上田市・長和町にまたがった標高二、〇〇〇メートルに広がる風光明媚な高原地帯が美ヶ原高原です。美ヶ原高原は、八ヶ岳中信高原国定公園

ふう けい き こう
風景紀行
美ヶ原高原
79
中信森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

園に指定され、日本百名山の一つとされています。また、山頂付近は国有林であり、風致探勝林としてレクリエーションの森にも指定されています。

美ヶ原という名称は、文字通り美しい高原という意味で、江戸時代の文献でもこの名称を使っていますが、定着したのは大正十年に木暮理太郎が、日本山岳会の会報に登山記録を載せた際に、美ヶ原と記したのがきっかけとされています。

美ヶ原高原は、その眺望の素晴らしさから「アルプスの展望台」とも呼ばれており、最高峰の王ヶ頭（二、〇三四メートル）や王ヶ鼻（二、〇〇八メートル）からは、東に富士山や浅間山、西に北アルプス、南に南アルプスや中央アルプス、北に妙高山や戸隠山など三百六十度の大パノラマを楽しむことができます。

また、約六〇〇メートルの高原には、季節を通して様々な植物が高原を彩りますが、特に六月下旬から七月中旬頃に咲く、松本市の市花でもあるレンゲツツジは見事で、緑の草原を真っ赤に染める光景は、毎年多くの観光客を魅了しています。

近年、美ヶ原高原周辺では、松本市を主体としてトレッキングコースの整備が進められており、高原風景を楽しむながら、トレッキングを行うことができます。自然の美しさも見事な美ヶ原高原ですが、その立地から電波塔設置の好適地とされ、王ヶ頭頂上付近にはいくつもの電波塔が立ち並んでいます。大自然と巨大

な人工物のコラボレーションを見られるのも、この高原の楽しみの一つでもあります。



王ヶ頭付近の電波塔群

気軽にアクセスできる、その名通りの美しい高原に是非一度足を運んでみてください。

◆アクセス

(所在地)

長野県松本市（上田市・長和町）

○車をご利用の場合

◇王ヶ頭・自然保護センター方面

長野自動車道松本ICより美ヶ原スカイラインにて1時間15分

◇美しの塔・美術館方面

長野自動車道松本ICよりアザレアインにて1時間10分

○公共交通機関をご利用の場合

美しの塔・美術館方面については、松本バスターミナルより路線バスが運行しています。



レンゲツツジと電波塔群